



株主のみなさまへ

第112期 中間報告書

2022年4月1日～2022年9月30日

INDEX

| | |
|---------|---|
| 宝グループ概要 | 1 |
| 社長メッセージ | 2 |
| TOPICS | 3 |
| 業績ハイライト | 5 |
| 会社情報 | 6 |



宝ホールディングス株式会社

証券コード：2531



和酒・日本食とライフサイエンスにおける多様な価値を提供する



宝酒造(国内事業)

売上構成比
37.6%

主な
事業内容

焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料、本みりん、食品調味料、原料用アルコールなどの製造・販売

今後の戦略

和酒No.1メーカーの
ポジションを活用した
付加価値経営への変革



宝酒造インターナショナルグループ(海外事業)

売上構成比
38.8%

主な
事業内容

酒類・調味料などの輸出および海外子会社での製造販売、海外の日本食材卸会社における酒類・食品などの輸入・販売

今後の戦略

国内事業との協業と
国内外でのグループシナジーの
さらなる発揮



タカラバイオグループ(バイオ事業)

売上構成比
19.8%

主な
事業内容

試薬、機器などの製造・販売、受託、遺伝子医療事業

今後の戦略

試薬・機器事業と
CDMO事業を通じた
バイオ創薬基盤技術の開発



2023年3月期第2四半期累計期間売上構成比

長期経営構想「TaKaRa Group Challenge for the 100th」

▶ Vision (ありたい姿)

笑顔で繋がる豊かな暮らしを
～Smiles in Life～

宝グループは、おいしさを追求する技術と革新的なバイオ技術によって、和酒・日本食とライフサイエンスにおける多様な価値を安全・安心に提供し続ける企業グループとなることで、人と人の繋がりと笑顔にあふれた健康的で豊かな日々の暮らしへの貢献を目指します。

▶ 事業戦略

宝酒造

国内の和酒No.1メーカーのポジションを活用した付加価値経営への変革によって、着実に利益成長できる事業基盤を再構築し、企業イメージを向上させてグローバル和酒No.1企業^(※1)としての根幹を支える。

※1: 国内+海外(輸出+現地生産)で和酒No.1

宝酒造インターナショナルグループ

グローバルな和酒の拡大を加速させるとともに、海外日本食材卸のネットワークの拡充を進めながら、国内外でのグループシナジーをさらに発揮し、海外における和酒・日本食材No.1企業^(※2)を目指す。

※2: 海外(輸出+現地生産)和酒No.1+海外日本食材卸No.1

タカラバイオグループ

試薬・機器事業とCDMO事業を通じ、バイオ創薬基盤技術開発を進め、新モダリティ(治療法)を創出し続ける創薬企業を目指す。

宝グループ 中期経営計画2022

■ 基本方針

環境変化の兆しを掴みとり、強化すべき領域へ適切な経営資源の配分と投下を行い、収益力を高める多様な「価値」を生み出し続ける事業構造とグローバルなコーポレート機能の再構築を推し進めることで、国内外での持続的な成長の実現とグループの企業価値向上に向けて足元を固める。

社長メッセージ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配をたまり厚くお礼申し上げます。

ここに、第112期第2四半期(2022年4月1日から2022年9月30日まで)の宝グループ事業概況などについてご報告申し上げます。

2023年3月期第2四半期累計期間の業績概況

当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、宝酒造インターナショナルグループは、好調を続けている英国、米国でのウイスキーに加えて、清酒が増加し海外酒類事業の売上高が増加するとともに、海外日本食材卸事業も飲食店市場を中心に引き続き好調に推移したため、増収となりました。宝酒造では、前年同期に比べて、価格改定前の9月の前倒し需要の影響などもあり、ソフトアルコール飲料、原料用アルコール等が増加し、増収となりました。タカラバイオグループも、受託が減少したものの、一般研究用試薬と遺伝子医療が増加するとともに新型コロナウイルス検査関連試薬が第7波の影響を受け増加したことにより増収となり、グループ全体の売上高は1,642億7,900万円(前期比16.3%増)となりました。

利益面では、宝酒造インターナショナルグループは、売上高の増加などにより増益となりましたが、宝酒造は、売上高が増加したものの原材料・燃料の価格高騰の影響により減益となりました。また、タカラバイオグループも売上構成の変化等により原価率が上昇するとともに、研究開発費などが増加し減益となり、グループ全体の営業利益は196億1,400万円(前期比9.3%減)、経常利益は199億7,200万円(前期比8.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は108億7,300万円(前期比8.2%増)となりました。

2023年3月期通期の業績予想と今後の事業戦略について

通期の連結業績予想につきましては、宝酒造インターナショナルグループが増益となりますが、宝酒造は、売上高は増加するもののコストアップを補いきれず減益となります。また、タカラバイオグループは、一般研究用試薬や新型



代表取締役社長

木村 睦

新型コロナウイルス検査関連試薬に加え、遺伝子医療が増加するものの原価率の上昇により減益となり、グループ全体では減益となる見通しです。

また、配当につきましては、配当性向で30%台後半となる安定的な配当を継続するという方針に基づき、一株当たり34円を予定しております。

今後に向けては、宝酒造インターナショナルグループは、本年8月に英国のタザキ・キャッシュ&キャリー社、10月にスペインのアマラン社を新たにグループに迎え入れましたが、今後も積極的にネットワークを拡充し、伸長する海外における日本食需要に 대응してまいります。宝酒造では、好調を続ける「タカラ「焼酎ハイボール」」に加え、「タカラ「辛口ゼロボール」」や「松竹梅「^{すばる}昇」」、「全量芋焼酎「^{イサイナ}ISAINA」」など新製品を育成するとともに、利益率の向上に取り組んでまいります。タカラバイオグループでは、試薬・機器事業とCDMO事業を通じ、バイオ創薬基盤技術開発を進め、新モダリティを継続的に創出する取り組みを加速してまいります。

企業価値の向上に向けて

当社グループでは、宝酒造・宝酒造インターナショナルグループにより世界の人々に和酒・日本食を通じて豊かな食生活をお届けするとともに、タカラバイオグループが健康的な暮らしに貢献することで、長期経営構想「TaKaRa Group Challenge for the 100th」のビジョンに掲げる「笑顔で繋がる豊かな暮らしを～Smiles in Life～」を実現していきたいと考えております。

株主の皆様には、引き続き当社グループへの温かいご支援をたまりますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

2022年12月

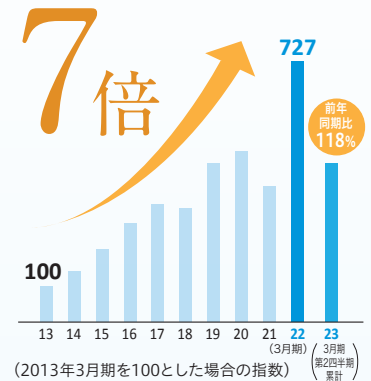


日本で人気のスパークリング清酒 「^{みお}霽」が今、世界に羽ばたく

2011年の発売以来、スパークリング清酒という新たな市場を創造してきた「霽」。20~30代の若者を中心に好評を博し、累計販売本数は8,000万本を突破しました。この人気は海外にも波及しています。輸出量は2013年3月期比7倍強と大きく伸長しており、2023年3月期第2四半期累計も前年同期比118%と好調をキープ。販売国数も39カ国に広がりました。海外で一番大きな市場となっている米国では、従来の日本食レストランのみならず、米系のスーパーなどにも導入が進んでいます。また、英国では最大の日本文化イベント「HYPER JAPAN」において「霽」特設ブースを設置し試飲販売を実施したところ、過去最高の約4,400本の販売を記録しました。フランスでは、新しい日本酒としての認知が進み、食前酒として人気が高まっています。当社グループは、「霽」を日本のみならず世界で愛されるグローバルブランドへ定着させるとともに、和酒・日本食を通じた豊かな食生活を提案していきます。

「霽」輸出推移

2013年3月期比



フランス

フーデックス社ではSAKEソムリエが「霽」のおいしさをアピール



英国

大勢の人でにぎわう「HYPER JAPAN」の「霽」特設ブース



米国

飲みやすくフルーティーな味わいが評価され、新しい日本酒として人気が高まっています。



松竹梅白壁蔵「霽」スパークリング清酒



宝酒造

タカラ「辛口ゼロボール」新発売

宝酒造は、ノンアルコールチューハイの新ブランドとして、「タカラ「辛口ゼロボール」」をこの秋に全国で新発売しました。

「タカラ「辛口ゼロボール」」は、キレのある味わいと飲みごたえが楽しめる辛口ノンアルコールチューハイです。アルコールを含まずにタカラ「焼酎ハイボール」のおいしさを濃縮した「タカラ「焼酎ハイボール」エキス」を新たに開発し使用しています。それにより、キレのある辛口の味わいは残しつつ、ノンアルコールでもしっかりとした飲みごたえとお酒感を実現しました。甘くないため、食事中にもお楽しみいただけます。また、カロリーゼロ、糖質ゼロ、甘味料ゼロ、プリン体ゼロという特長が、健康意識の高いお客様にもぴったりです。

ネーミングは、味わいと4つのゼロをストレートに表現して「辛口ゼロボール」と名付けました。またパッケージは、エンボス缶を使用し白を基調にしたデザインで爽快感を表現するとともに、缶体に“ノンアルコール”・“辛口チューハ

イテイスト”・“ALC. 0.00%”のアイコンを配することで、ノンアルコール飲料であることをわかりやすく表しています。

ノンアルコール市場は、お客様の健康意識の高まりや飲酒スタイルの多様化を受け、今後も拡大が予想されます。宝酒造は、辛口ノンアルコールチューハイの新ブランド“タカラ「辛口ゼロボール」”を新たな選択肢としてご提案することにより、お客様ニーズにお応えするとともに、ノンアルコールRTD市場のさらなる活性化に努めてまいります。また、「タカラ「辛口ゼロボール」」を育成することで、「宝グループ・サステナビリティ・ポリシー」で掲げる10の重要課題のうち、「健康」への取り組みを進めてまいります。



タカラ「辛口ゼロボール」



タカラバイオグループ

一般用SARSコロナウイルス抗原検査キットを発売

タカラバイオは、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)抗原簡易検査キット「HEALGEN COVID-19抗原迅速テスト(一般用)」(以下、本キット)について、8月30日に厚生労働省の承認を受け、9月12日より一般用検査薬(第1類医薬品)として発売しました。

タカラバイオでは、本年3月に厚生労働省の承認を受け、体外診断用医薬品「HEALGEN COVID-19抗原迅速テスト」を販売しています。本キットはこれを厚生労働省が8月に発表したガイドラインに従ってスイッチOTC化したものです。

スイッチOTCとは、体外診断用医薬品のうち一般用医薬品として取り扱うことが認められた一般用検査薬(OTC検査薬)を指します。本キットは一般用検査薬(第1類医薬品)のため、薬剤師の説明のもと薬局等、あるいはインターネットでの販売が可能です。

タカラバイオは、国内の抗原簡易検査キットの安定供給を通じ、新型コロナウイルス感染症対策を支援します。

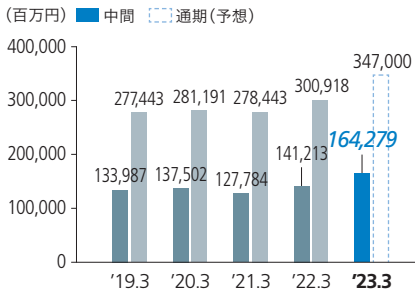


「HEALGEN COVID-19抗原迅速テスト(一般用)」

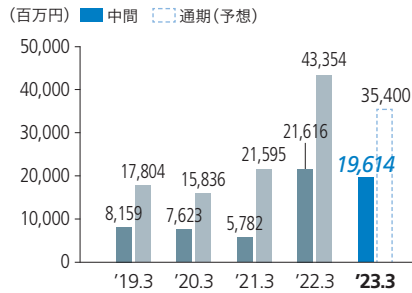
※写真はイメージです。実際には説明書や添付文書が同梱されます。

宝グループ連結

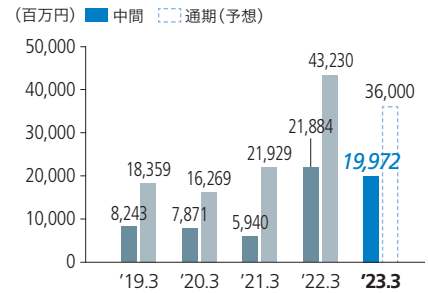
売上高



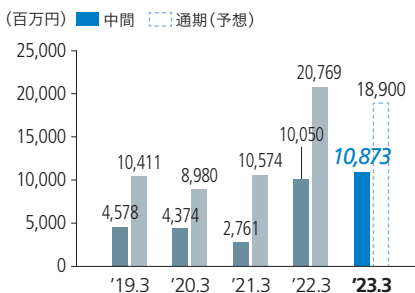
営業利益



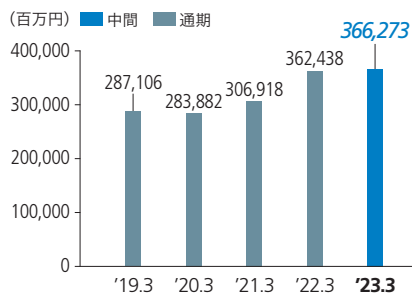
経常利益



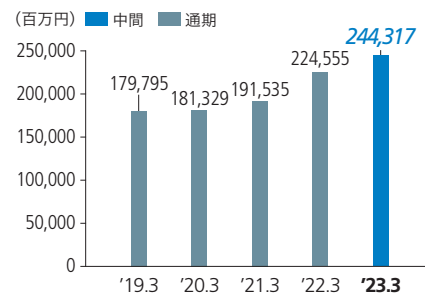
親会社株主に帰属する当期純利益



総資産



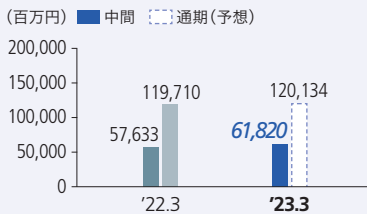
純資産



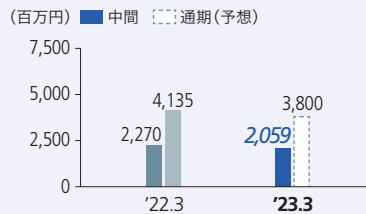
(注) 2022年3月期より、収益認識に関する会計基準等の適用に伴い、従来販売費及び一般管理費で処理していた費用の一部を売上高から控除しております。

宝酒造

売上高



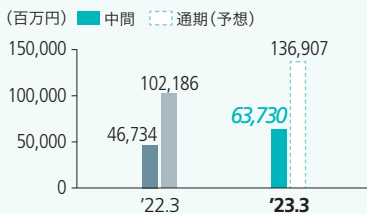
営業利益



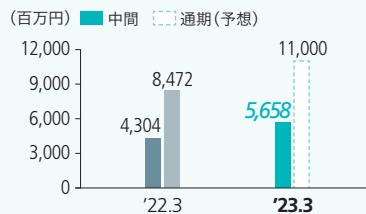
売上高は、ソフトアルコール飲料や原料用アルコール等の売上の増加に加え、価格改定前の9月の前倒し需要により前年から増収となりました。営業利益は、粗留アルコール等の原価のコストアップ等の影響により9.3%の減益となりました。

宝酒造インターナショナルグループ

売上高



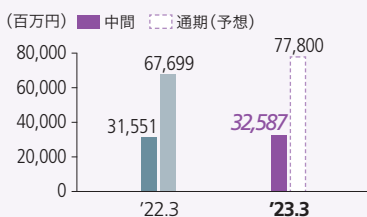
営業利益



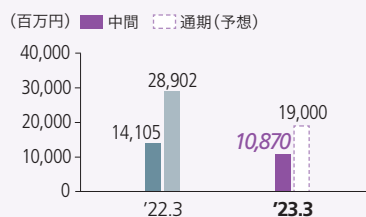
海外における日本食市場の広がりを受け、海外日本食材卸事業の飲食店向け販売が引き続き好調に推移したことに加えて、海外酒類事業におけるウイスキーや清酒の販売も増加したことにより、増収となりました。営業利益も販売好調を受け、31.5%の増益となりました。

タカラバイオグループ

売上高



営業利益



売上高は、一般研究用試薬と遺伝子医療が増加するとともに、新型コロナウイルス第7波の影響を受け検査関連試薬の売上が増加したことにより増収となりました。営業利益は、原価率の上昇に加え、研究開発費などが増加したため、22.9%の減益となりました。

■ 会社概要

| | |
|--------|---|
| 商号 | 宝ホールディングス株式会社 (英文表記: TAKARA HOLDINGS INC.) |
| 本店所在地 | 京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地 TEL 075-241-5130 |
| 設立 | 1925年(大正14年)9月6日 |
| 資本金 | 132億2,621万5,144円 |
| 従業員数 | 184名(グループ連結:4,934名) (2022年3月31日現在) |
| 連結対象会社 | 58社 |

■ 取締役および監査役

| | |
|--------------|--------|
| 代表取締役社長 | 木村 睦 |
| 常務取締役 | 高橋 秀夫 |
| 取締役 | 仲尾 功一 |
| 取締役 | 森 圭助 |
| 取締役(社外取締役) | 友常 理子 |
| 取締役(社外取締役) | 川上 智子 |
| 常勤監査役 | 三井 照明 |
| 常勤監査役(社外監査役) | 山中 俊人 |
| 常勤監査役 | 鈴木 洋一 |
| 常勤監査役(社外監査役) | 松永 諭 |
| 監査役(社外監査役) | 北井 久美子 |

■ 株式の状況

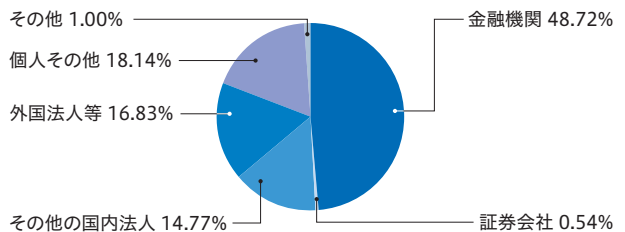
| | |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 870,000,000株 |
| 発行済株式総数 | 199,699,743株 |
| 株主数 | 53,954名 |

■ 大株主(上位10名)

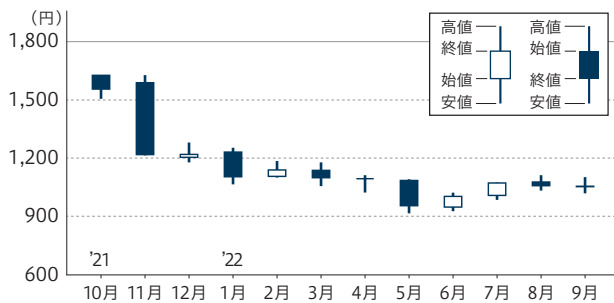
| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|-----------------------------|---------|---------|
| 日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口) | 35,358 | 17.88 |
| 株式会社日本カストディ銀行 (信託口) | 13,878 | 7.02 |
| 株式会社みずほ銀行 | 9,738 | 4.93 |
| 農林中央金庫 | 9,500 | 4.81 |
| 明治安田生命保険相互会社 | 5,370 | 2.72 |
| 株式会社京都銀行 | 5,000 | 2.53 |
| 東京海上日動火災保険株式会社 | 3,878 | 1.96 |
| 国分グループ本社株式会社 | 3,489 | 1.77 |
| 宝グループ社員持株会 | 3,177 | 1.61 |
| 日本アルコール販売株式会社 | 3,000 | 1.52 |

(注)1. 持株数の千株未満は切り捨てております。
2. 持株比率は、自己株式(1,995千株)を控除して計算しております。

■ 所有者別株式分布状況



■ 株価の推移



■ サステナビリティ News

統合報告書

「宝グループレポート2022」を発行しました。

宝グループでは、2018年より統合報告書「宝グループレポート」を発行しており、この度「宝グループレポート2022」を発行しました。

「宝グループレポート」では、財務情報や事業戦略、ESGをはじめとするさまざまな課題に対する宝グループの取り組み状況を示しています。

ウェブサイトに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

▶ <https://ir.takara.co.jp/ja/Library/AnnualReport.html>



株主優待制度について

当社は、毎年3月31日現在の株主名簿に記載された、当社株式100株以上を保有されている株主様を対象とした株主優待制度を実施しています。ご案内は、毎年6月上旬にご送付しております定時株主総会招集ご通知に同封してお送りいたします。

● ご優待内容

当社株式の保有数に応じて優待品を年1回贈呈いたします。

| | |
|-----------------|----------|
| 100株以上、1,000株未満 | 1,000円相当 |
| 1,000株以上 | 3,000円相当 |

上記金額相当の酒類詰め合わせ、調味料詰め合わせより1点選択(優待品に代えて社会貢献活動への寄付も選択可)

※ 本年度実施分の申込み受付は終了いたしました。

<社会貢献活動への寄付実績ご報告>

本年度は、株主の皆様よりお申込みいただいた結果に基づき、次のとおり寄付を行いました。

ご賛同いただきました株主様に対し、厚くお礼申し上げます。

| | |
|----------------------|----------|
| 公益信託「タカラ・ハーモニストファンド」 | 475,000円 |
| 日本赤十字社 | 993,000円 |

| | |
|--------|--|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 基準日 | <ul style="list-style-type: none"> ● 定時株主総会(議決権行使)、期末配当 毎年3月31日 ● その他必要があるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。 |
| 単元株式数 | 100株 |
| 上場取引所 | 東証プライム市場 |
| 証券コード | 2531 |

| | |
|-----------------------|---|
| 公告方法 | 電子公告により、当社ウェブサイトに掲載します。(https://www.takara.co.jp) ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、京都新聞および日本経済新聞に掲載して行います。 |
| 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 | みずほ信託銀行株式会社 |
| お問合せ先 | みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話番号(フリーダイヤル): 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00) |

特別口座で株式を保有されている方へ

特別口座に記録されている株式は、株式市場での売買はできません。株式市場における株式売買のためには、証券会社にお取引口座を開設し、みずほ信託銀行の特別口座からの株式の振替手続が必要となります。

単元未満株式を保有されている方へ

単元未満株式(100株未満株式)をお持ちの場合、会社に対して、次の請求を行うことができます。

1. 単元未満株式の買取りを請求する(買取請求)
2. 単元株式(100株)にするため、不足する株数の株式の売渡しを請求する(買増請求)

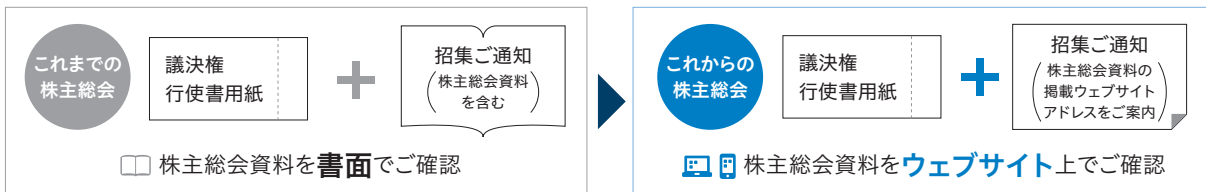
お問合せ先

証券会社の口座で管理されている単元未満株式
▶ お取引されている証券会社
特別口座で管理されている単元未満株式
▶ みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

「株主総会資料の電子提供制度」に関するご案内

会社法改正により「株主総会資料の電子提供制度」が施行され、これまで招集ご通知に記載してご郵送しておりました株主総会資料(株主総会参考書類、事業報告、連結計算書類、計算書類、監査報告)の内容につきましては、原則としてウェブサイト上でご確認いただくこととなります。

これに伴い、2023年6月開催の当社定時株主総会では、ご郵送する招集ご通知に、株主総会資料をご確認いただくためのウェブサイトアドレスを記載してご案内する予定です。



※議決権行使書用紙は、原則としてこれまでどおりお送りいたします。また、当社の判断で株主総会資料の一部等を同封する場合もございます。

引き続き書面での株主総会資料の受領を希望される株主様へ

インターネットのご利用が困難であるなど、引き続き書面での株主総会資料の受領を希望される株主様におかれましては、「書面交付請求」の制度が設けられていますので、下記までお問合せください。

書面交付請求に関するお問合せ先

お取引されている証券会社 または みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
<みずほ信託銀行専用ダイヤル(フリーダイヤル):0120-524-324(土・日・祝日を除く9:00~17:00)>

※2023年6月開催の当社定時株主総会において書面での受領を希望される場合は、その基準日である2023年3月31日までに書面交付請求のお手続を完了いただく必要がございます。お手続にはお時間がかかる場合がございますので、お早めにお問合せください。

ご参考:「株主総会資料の電子提供制度」に関するQ&A

▶ https://contact.www.mizuho-tb.co.jp/category/show/72?site_domain=daikou

(検索エンジンにて「みずほ信託 電子提供制度FAQ」で検索ください)



(注) この報告書に記載されている業績予想等の将来に関する事項は、現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいていますが、実際の業績等は、予期しない経済状況の変化をはじめさまざまな要因により、大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



この印刷物は、環境に配慮した植物油インキと、適切に管理されたFSC® 認証林からの原材料および再生資源から作られた紙を使用して制作されています。